

決算状況をお知らせします

財政課 ☎086-803-1146 📠086-803-1735 📧zaiseika@city.okayama.lg.jp

市では、積極的に行財政改革を進めてきた結果、財政指標は総じて健全に推移しているところです。今後も『岡山市第六次総合計画』に基づく各般の政策を推進し、基本目標である「未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山」の実現に向けて都市の持続的な発展を財政面で支えていく必要があります。

しかし、人口減少、少子高齢化の進行に伴う社会保障関係経費の増加や公共施設などの老朽化への対策に加え、激甚化・頻発化する自然災害や新型コロナウイルス感染症への対応など新たな課題を抱える一方、感染症の影響に伴い下振れリスクが想定される市税収入などの一般財源の動向は不透明であり、財政は予断を許さない状況にあります。

このような状況に対応するため、引き続き行財政改革を推進し、将来世代に負担を先送りすることがないように、財源調整基金の残高を一定程度保ち、市債の残高や指標にも留意しつつ、財政運営の健全性を確保した上で、市民福祉の向上とまちの発展を実現していきます。

◆令和2年度決算とは

市の会計は基本的な経費を経理する「一般会計」と、特定の事業を経理する「特別会計」や「事業会計」で構成されています。

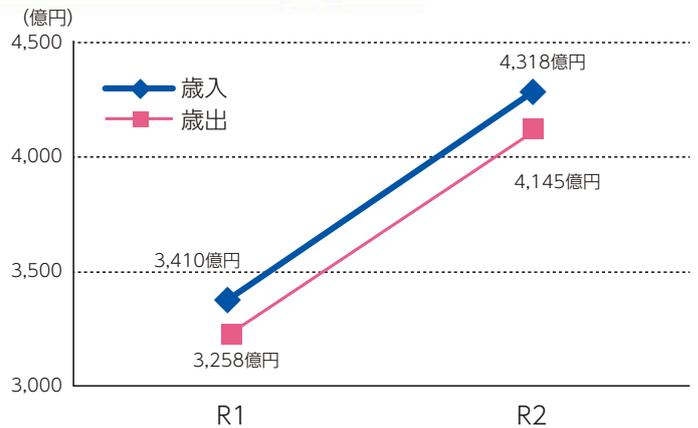
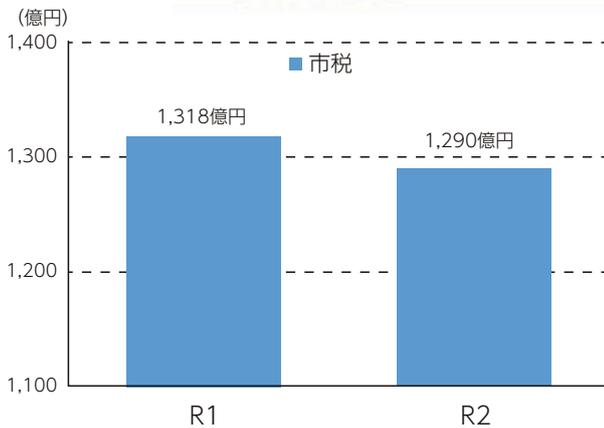
ここでは、地方公共団体同士を比べるために用いる「普通会計」について決算状況のあらましを説明します。

◆決算規模

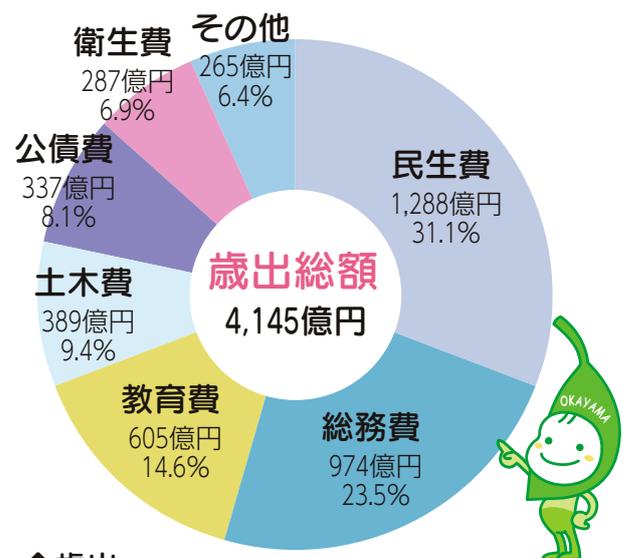
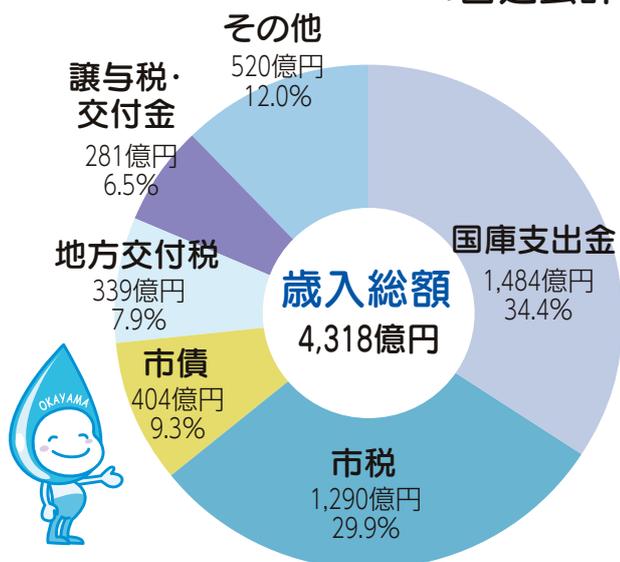
令和2年度の普通会計の決算額は、歳入が4,318億円、歳出が4,145億円となっています。

歳入の大部分を占める市税は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、前年度と比べ28億円少ない1,290億円となっています。

歳入歳出決算額の推移など



<普通会計の歳入歳出総額>



◆歳入

～重要な市税収入1,290億円で歳入全体の29.9%～

令和2年度の歳入決算額のうち、市民の皆さんに納めていただいた市民税・固定資産税などの市税収入は、1,290億円で歳入全体の29.9%を占めています。なお、新型コロナウイルス感染症への対応に伴い、国庫支出金が増加し全体の34.4%を占めています。

◆歳出

～福祉に使ったお金が一番多く1,288億円～

令和2年度の歳出決算額を目的別に分類すると、福祉のための経費である民生費が31.1%と最も多く、続いて総務費が23.5%、教育費が14.6%、土木費が9.4%などとなっています。なお、総務費は、特別定額給付金などが増えたことに伴い、昨年より大きく増加しています。



健全化判断比率4指標などの状況



「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、財政の健全性に関する比率を公表しており、岡山市は令和2年度決算において健全化判断比率4指標および資金不足比率の全ての基準をクリアしています。

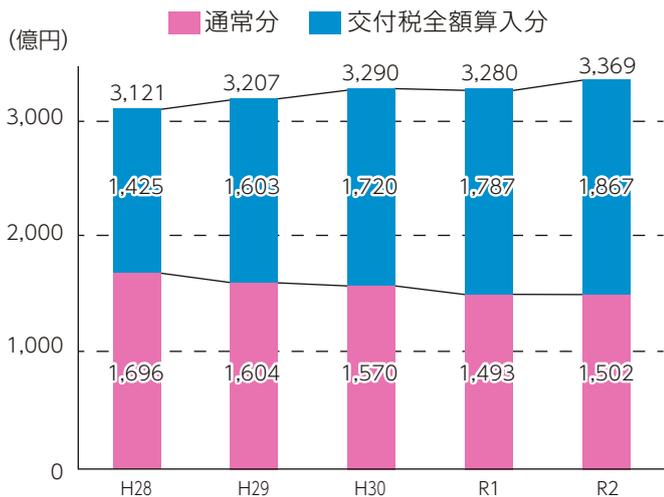
指 標		説 明	岡山市の比率	早期健全化基準	財政再生基準
健全化判断比率	実質赤字比率	一般会計等を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率	-※1	11.25%	20%
	連結実質赤字比率	全会計を対象とした実質赤字額（または資金の不足額）の標準財政規模に対する比率	-※1	16.25%	30%
	実質公債費比率	一般会計等が負担する元利償還金および準元利償還金の標準財政規模に対する比率	5.4%	25%	35%
	将来負担比率	一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率	-※2	400%	
資金不足比率		公営企業ごとの資金不足額の事業規模に対する比率	-※1	20%	
経常収支比率		人件費など経常的な経費の経常的な一般財源に対する比率	90.6%		

(※1) 実質赤字額、連結実質赤字額、資金不足額がないため「-」を記載

(※2) 将来負担比率は、充当可能財源等が将来負担額を上回り、算定されないため「-」を記載



市債残高の推移



財源調整のための基金残高



	残高 (前年度からの増減)	説明
財政調整基金	198億円 (+4億円)	年度間の財源不足に備える目的で設置している基金で、市税の歳入の増減や災害への対応など、財源が不足する年度に活用します。
市債調整基金	14億円 (±0億円)	市債の償還に必要な財源を確保する目的で設置している基金で、償還期限を繰り上げて市債の償還を行う場合や、年度によって市債の償還が多額になる場合に活用します。
公共施設等整備基金	168億円 (±0億円)	防災・減災事業や施設の老朽化などに対応する目的で設置している基金です。

詳細は、財政課HP内の「令和2年度決算(案)の概要」、「岡山市の財政状況[第23版]」をご覧ください。



※財源調整のための取り崩しを行った一方で、令和元年度決算の剰余金積み立てを行った結果、前年度と比べ4億円の増加となっています。



〇宝くじは身近なまちづくりに役立てられています

岡山県内で販売された宝くじの収益金は、岡山県および岡山市の収入になります。

宝くじは、岡山県内で買ってね!

